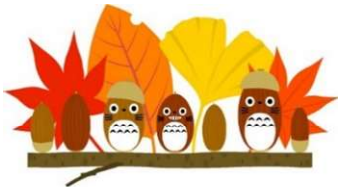
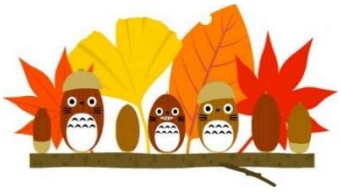


JTCかわら版

VOL.190　令和２年11月号



目次

・「世に生を得るは事を為すにあり」
社内全体会議での北野の訓話より

・ＪＴＣ　Ｎｅｗｓ
ＪＴＣかわら版の電子送付について

・民法改正２０２０　賃貸借編

・ＴＡＸ　ＮＥＷＳ
～令和２年分年末調整事務のおさらい～

・書面添付制度のご案内
最新の意見聴取の実績より

JAPAN TOTAL CONSULTING

「世に生を得るは事を為すにあり」

北野　座右の銘

日本経済新聞にいくつか好きなコーナーがあります。今回はその中の『私の履歴書』から、**アートコーポレーション株式会社、名誉会長の寺田千代乃**氏のお話しをさせていただきます。

今では引っ越しの専門業者も多くありますが、同社を立ち上げた当時、専門業者はなく、引っ越しというものは運送業者が一番嫌がる仕事だったので、寺田氏はそこに目を付け、特化しようと思われたそうです。

寺田氏は経営に関して徹底していらっしゃいます。例えば

① **社名**　当時引っ越しを依頼するのは電話。その際に何を見て電話するかというと電話帳でしたよね。その電話帳の一番上に来るように社名を決めたそうです。電話帳は五十音順ですから１文字目は“ア”その次に来るのが伸ばしの“ー”が１番上に来るそうです。

② **電話番号**　アート引っ越しセンターの電話番号といえば“0123”全国の末尾４桁が“0123”の番号を買い取りに行ったそうです。

③ **広告媒体**　元々広告はラジオでしたが、テレビにして反響が凄かったらしいです。40年前と言ったら皆テレビを見ていましたから。

④ **CMソング**　当時のCMソングは「荷造りご無用～」だったんですよ。引っ越しで荷造りしないでいいなんてなかったですから、配達員のお兄さん達は大変だったようですが。

このように会社の認知度を上げることを徹底的にされたようです。

ちなみにテレビコマーシャルはお金がとてもかかりますが、当時銀行に融資を断られたそうです。その為役員は勿論、従業員全員に個人でお金を借りてもらいかき集めたそうです。

そういったことを経て急成長をしていく中、当然二番煎じといいますか専門業者も増え価格競争を仕掛けられるわけですが、独自路線の気配り目配りのサービスを展開。「荷造りご無用」に加え、シャツが出てくるのが見苦しいとのお客様からの指摘から従業員の制服をつなぎに変更、新しい家に引っ越しをするのに汚い靴下で入って欲しくないとの考えから靴下を毎回新品に買い替える、近年では「女性パック」という、女性の１人暮らしの引っ越しは女性従業員が運ぶサービスなど独自のサービスを多数展開し、年商1,000億円企業へと成長させたそうです。

お客様の為に役立つと思いついたものはすぐに導入するという実行力、常にお客様目線で仕事を考える努力は我々も見習うべきだと感じました。

北野慎二

JTC News

ペーパーレス化の時流に沿って、JTCかわら版も前月号より一部お客様には、メール・弊社導入のコミュニケーションツール「Chatwork」にて、データ送付をさせていただいております。

引き続き受け付けておりますので、ご希望のお客様はご一報くださいませ。